

トークライブで“物理探査”!

蒲都市生命の海科学館・学芸員
京都大学大学院工学研究科准教授
名古屋大学大学院環境学研究科・博士研究員

山中 敦子
後藤 忠徳
上野 振一郎

蒲都市主催のお祭りの夜、今年も「サイエンストーク・蒲郡まつりスペシャル 2014～SF映画に乾杯～」が開催されました^(注1)。今回は映画「ジュラシック・パーク」第一作のシーンを見ながら、私達3名がSFへの愛に満ちた科学トークを繰り広げ、参加者の皆さんからも質問や意見が飛び交いました。飲み物片手に科学や物理探査を楽しく理解できた今回のイベント、その様子を私達3名の対談形式で振り返ります。



日 時：平成26年7月19日(土) 午後7時～8時
場 所：蒲都市生命の海科学館(愛知県)
共 催：名古屋大学産学官連携推進本部 あいちサイエンスフェスティバル事務局
蒲都市生命の海科学館
後 援：公益社団法人物理探査学会
地球電磁気・地球惑星圏学会
参加者数：予約者30名のうち16名が参加
(一時、大雨・洪水警報も発令されたため)



山中：後藤さん、上野さん、先日の「サイエンストーク」ではお疲れ様でした。ビールなどを一杯飲みつつ、参加者がリラックスできる科学イベントを目指しましたが、いかがでしたでしょうか?

上野：十分に「効果」が発揮されていたように思います。参加者の方々に無邪気さと積極性が出やすくなっていました。

後藤：イベント開始時の山中さんの「乾杯!」のご発声も効果的でした。科学イベントが乾杯から始まることってあり

ませんし(笑)、かしまらない雰囲気ことができました。

山中：そうですね! あの「乾杯」がいいアイスブレイキングになったと思います!

サイエンストークライブの 試み

後藤：今回のイベントは、私達3人の研究者が代わる代わる映画にまつわる科学の話をし、参加者の皆さんも交えて講演者も互いに質問をする「トークライブ」形式でした。学術講演会等とは異なっていて、とても新鮮でした。

山中：お互いが話す内容を事前にネタあわせしましたが、「打ち合わせをしすぎなかった」のが良かったですね。お陰で理系トークがあれこれと広がりました。

上野：事前打ち合わせが深くなり過ぎると、わざとらしくさというか、参加者の方との距離が離れてしまったかもしれませんね。

後藤：ちなみに僕は上野さんのお話が楽しかった。「恐竜に体当たりされた自動車は、なぜ横転もせず走り続けられたのか?」など、映画のシーンへの些細なツッコみに科学的な面白みがあると思うんです。

上野：ありがとうございます!

山中：逆に「そんなのダメ」も参加者の皆さんには面白かったと思います。笑いが出ていました。

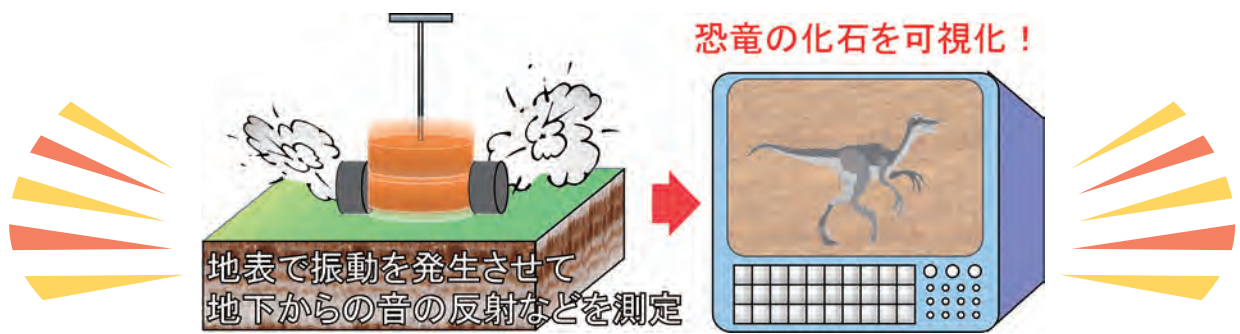
後藤：あ、すみません。山中さんは「恐竜が歩く力で発電ができれば、停電にならず、劇中のパニックを避けられたのでは?」と提案されたのに、私が「発電量が小さすぎてダメ」って言っちゃったんですね(汗)。

物理探査はスゴイ!

後藤：そういう私自身は映画のワンシーン「人工地震を用いた恐竜の化石探査」のお話をさせて頂きました^(注2)。物理探査のお話でしたが、分かりやすかったですでしょうか?

上野：率直に面白かったですよ。映画の化石探査のシーンは、物理探査を使えば見えない部分(地下の様子)を見られるんだ、という典型例でしたから。

後藤：そう言って頂けるとほっとします。上野さんの言われるような「目に見えないものを掘らずに見る」のが物理探査の醍醐味なのですが、「口で言われても分かんない



物理探査で化石を発見。映画のシーンはウソ? ホント?

よ〜」という初心者の方々が多いです。その点、今回は映画の映像があったのでイメージしやすかったんでしょうね。

山中: それはありますね。ジュラシック・パークの映像と解説の相乗効果。映画がちゃんと科学考証して作られているからできた技でもありますよね。

後藤: ただ正直言って、映画の映像のほうが(いまのテクノロジーよりも)先を行っています。本物の地下の様子はもっと複雑で、あんなに綺麗な地下映像にはなりません(泣)。

山中: えー、そうだったんですか。

後藤: 地下映像は人間のレントゲン写真に似ていて、何が写っているのかは素人目には分かりづらい。でも映画では、地下の化石は生きていた時のようにくっきりと見えている。演出ですね(笑)。

上野: 本当の科学的事実には分かりやすさに欠け、分かりやすい映画は事実とやや異なる。でも科学を好きになるためには両方の情報が必要だと思います。

山中: 物理探査がもっと汎用化する際には、地下映像ももっと分かりやすくなるとおもいますが、いかがでしょうか。

後藤: お二人のおっしゃる通りです。汎用化=見て分かり

やすい事も、物理探査技術者のテーマの一つです。プロだけでなく、初心者にも分かりやすい地下映像を得るために私も日夜努力しています(笑顔)。



貴方なら何を探す?

後藤: とところで、お二人は「私も地下探査やりたい」と思ったりはしませんか?

上野: 僕は雪崩遭難者を救助する方法を探究したいです。何か応用できそうな気がしているんです。あとは不発弾の捜索ですね。怖いですから。

山中: おお!

後藤: 災害救助用のレーダー、ありますよ。「人命探査レーダー」といいです。不発弾も物理探査で見つかりますよ!

山中: 地表からでは分からない「隕石クレーター」探しとかにはもう使われていますか?

後藤: ええ。恐竜絶滅の原因とも言われるメキシコのチチュルブ・クレーターでは重力探査や地震探査でクレーターの凹みを見つけています。

山中: 実は長野県で、近年になって小さなクレーターが発見されています。新しい発見につながりませんか?

後藤: おお! 物理探査で探してみませんか? でも、まずは手始めに次回の「サイエンストーク」で隕石にまつわるSF映画を題材に、今回のようなイベントができることを楽しみにしています。

上野: 私も次にお話しできる時を楽しみにしています!

山中: ありがとうございました! またどうぞよろしく願いいたします(笑顔)。



講演者同士のやりとり、会場からも笑い!

注1: 昨年の様子は物理探査ニュースNo.20(2013)に掲載されています(P.14)。

注2: 映画「ジュラシック・パーク」中の化石探査に関しては物理探査ニュースNo.20(2013)をご覧ください(p.13)。

